



ヘンリー・クラウド／ジョン・タウンゼント著

# 「聖書に学ぶ子育てコーチング 境界線 ～自分と他人を大切にできる子に」

評者・桐山 明日美 (垂穂キリスト教会 牧師夫人)

思いがけず、本書を知人からプレゼントされた。現在7才、5才、2才の3人の子育てに奮闘し、また、最近教会のスマイルグループの中で、やはり同著者たちによる『境界線―聖書が語る人間関係の大原則』（地引網出版）を改めて学び始めたばかりの私にとって、まさにタイムリーな天からの贈り物であった。

学びつつある「境界線」の概念を子どもたちにも教えていきたいと自分なりに奮闘してきた。家族のルールを決めて守れない場合にはペナルティーを与え、頑張った者にはごほうびを出したりして、それなりに効果が出る面もあったが、ここに来ていま一つ行き詰まりを感じていた。

本書を読む中で、それらの部分に対する多くの答えを与えられ喜んだのと同時に、自分がいかに間違った方法で子育てをしているかを痛感した。

私自身、今やこれなくしては生きられないと言いつける程のものとなっている「境界線」の概念だが、聖書的な意味を初めて知ったのは、数年前に出版された前著『境界線』を読んでからだ。当時、2人目を出産直後

で、自分の完璧主義と多忙な夫との狭間で半燃え尽き状態になってしまった。しかし、その頃読んだ前著を通して、この燃え尽きの原因が私自身の「境界線」欠如にあること、そしてこの「境界線問題」は自分自身のみならず、家族や周りの人々、最終的には神様との関係をも隔てているのだという衝撃の事実を突き付けられ、以来神様の深い憐みによって一歩一歩回復の途上にある。本書はその前著の続編であり、「境界線」の原則を子育てに適用することを目的として書かれた本である。

自分の子どもが「境界線」を正しく持ち「神から委ねられた自分の人生を責任を持って管理し、誰かに不健全に依存したり拘束されたりすることなく、愛を動機とした自由で主体的な生き方ができる」大人に成長してくれたら、親として本望だろう。本書には、子どもがその様な成熟した大人として成長することを目標とした上で、親が子どもにどのように関わっていくべきかを、子を持つ親なら一度は遭遇している具体的な例話をふんだんに織り交ぜられている。家族や子どもとの状況などによって多少の違いはあるけれど、実際に自分の子育てに適用するた

めヒントも豊富である。もちろん、子どもに「境界線」を教えるのは、決して一朝一夕には出来ることではない。常に恵みによって、子どもの心に共感を示しつつも、真理に固く立ち断固とした態度を貫かねばならない。そのためにも、何よりもまず親自身が境界線を正しく持つことが不可欠である。正直、気の遠くなるような思いがしたが、出版元、あめんどう社のブログに載っていた訳者の中村佐知さんのコメントに、私自身とても励まされたので最後に紹介したい。

「本には具体的な事例が簡潔に書いてあるので、『こんな簡単にいくのか』と勘違いするかもしれませんが、実際には、そうは簡単にいきません。そのためにもぜひしていただきたいことは、例えば月に一回などの読書会を作り、同じ立場にいる人たちと体験を分かち合い、また他の人の取り組みを聞くような学びの場を作りたい」と



とです。1人で孤立しては挫折感に捕らわれて、『ああ、やっぱ自分はダメな親だ』で終わってしまうかもしれない。グループで学ぶと、共感、励まし、貢献が生まれますし、そうするうちに、私たちの内の『未発達な境界線』に気づくことが多くなります。そして、子育てと言いつつも、じつは親の側の『自制』が大切になってくことを教えられます。いつか、この本を教会のスマイルグループで学んでみたい。親としてという以前に、私自身の内側が深く探られる。現在進行形で子育てをしている人のみならず、誰にでも読んでほしい一冊である。

## 「聖書に学ぶ子育てコーチング 境界線～自分と他人を大切にできる子に」

著者 ヘンリー・クラウド／ジョン・タウンゼント  
訳：中村佐知  
あめんどう社刊 四六判 407ページ 2,100円(税込み)  
\*本書は、FFJでも取り扱っております